

# デジタルとアナログの共生・アートマイル・プロジェクト

総合的な学習の時間を活用し Video Conference や BBS 活用による国際理解学習の記録。

学校名 大阪府 高槻市立第八中学校 岡崎あかね

これは大阪府高槻市立第一中学校での 2007 年度の取り組みである。一学年の後期総合・国際理解教育のまとめとして共同壁画制作に取り組んだ。校内組織は実行委員会形式をとり、委員会のメンバーは後期の総合係と美術係で運営した。下絵はインターネットを活用し、BBS に書き込んで進めた。壁画制作の中間発表にはテレビ会議を行った。技術科授業でのパワーポイントの作成技術や英語科授業における自己紹介、美術科の配色や構図などを総合的につなげる授業となった。

1 日程 2007. 11 月～2007. 5 月制作  
日本制作 2007 年 11 月～2008 年 3 月初旬  
ロシア制作 2008 年 4 月～5 月末。  
参加者 日本 大阪府高槻市立第一中学校  
第一学年生徒 128 名  
ロシア モスクワ 1129 学校 15 名

## 2 ねらい

- ・ 海外の学校との共同制作を通じた異文化理解と自国文化の再認識。
- ・ 異文化圏の友達とのコミュニケーション能力の育成。
- ・ 情報活用能力（受信と発信）の育成。
- ・ 構図や色彩を活用した表現力の育成。
- ・ 課題を迫及し、仲間と協力して最後まで完成する態度の育成。

## 3 内容・・・学習の流れ

### ●2007 年 10 月 後期授業開始

総合的な学習の時間のテーマは国際理解。国立民俗学博物館へのフィールドワークを元に、いろいろな国を調べ学習し、まとめて発表する。その後具体的に海外の学校と交流し、協同壁画を制作する方向を教師間で確認。

教師は二人一組でクラスを受け持ち、New Year Card や絵画制作、日本紹介に一般の生徒と共に取り組んだ。校内組織は実行委員会形式で第 1 回実行委員会では、実行委員会の役割と予定を説明。

●11 月 国立民族学博物館の調べ学習。まとめクラスの学習班で各々発表したい国を決め、発表形式を決める。「みんなっく」を活用する。第 2 回実行委員会。（放課後）

昨年度選択美術授業で取り組んだパレスナ難民キャンプとのアートマイル制作や今年のモスクワ 1129 学校の紹介ビデオを見て、日本語で自己紹介を書く。

第 3 回 実行委員会。（放課後）  
自己紹介を BBS に英語で AET と共に書き込む。

第 4 回 実行委員会。（放課後）  
デジタルカメラで校外外の写真を撮り、英語表

記による日本の学校紹介をパワーポイントで作成。インターネットで送る。

●12 月 「みんなっく」を活用した発表。

モスクワ 1129 学校へ生徒全員が New Year Card を書き、折鶴を送る。

第 5 回実行委員会 BBS を見る。

下絵を考え提案する。

●2008 年 1 月 四季調べと絵画制作。

モスクワ 1129 学校からインターネットで届いた New Year Card のパワーポイントと学校紹介を生徒全員が見る。下絵のテーマは「四季の樹」である。互いの国の四季を調べ一つの樹として表現した。四季のうち、2 つずつ季節を決めて描く。日本は春と秋を担当。ロシアは冬と夏を描く。

●2 月 四季調べから絵画制作。

●3 月 日本側絵画完成。発送。中間発表にスカイプでロシアとテレビ会議を行う。壁画を送った後は、日本紹介を絵と英語で書く。実行委員会は見てほしいポイントをまとめる。

●4 月 約 1 ヶ月近くかかりモスクワ 1129 学校に絵が到着した。モスクワから制作中の写真がインターネットで届いた。

## 4 成果及び課題。デジタルとアナログの共生。教師のチームワーク。

成果…今年初めてアートマイルに参加した教師達は、異文化について知ることと同時に、自国の文化を学ぶことが出来て良かった。テレビ会議で同世代のロシアの生徒たちとコミュニケーションがとれてよかった。遠い国と一つの作品を完成する喜びを味わえた。教師同士のチームワークが取れてよかったと言っている。

課題…学年で取り組むのは実行委員会システムが良いが、テレビ会議には全員が参加できなかったため、生徒間の達成感に違いが出た。

日本からは生徒全員が作った折鶴や New Year Card を送ったが、ロシアからは手で触ることの出来るものは届かず、生徒は返事が早く来てほしいと言っていた。デジタルとアナログ、両方とも活用し双方の良さを引き立てることが達成感のある授業になるのではと考える。